

# 不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.9 (2016.11.27)

平成 28 年度スローガン  
創業 140 周年に向けて！  
みんなで目指す顧客感動経営  
～和賀組さんで良かったといわれよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

茶道、武道、芸術等における師弟関係のあり方の一つに「守破離（しゅはり）」という思想があります。これは個人の能力を3つの段階で表しているもので、守る・破る・離れるというレベルに応じた修練が重要であることを示唆しています。第一段階は、まずは師匠に言われた型を「守る」という修行。第二段階としては、その型を自分と照らし合わせて研究することにより、自分に合ったより良いと思われる型をつくることで既存の型を「破る」。第三段階は最終的に師匠の型・自分自身が造り出した型から自由になり、型から「離れ」て自在になるというものです。武道や芸術分野において新たな流派が生まれるのはこのためであると言われています。これは普段の私たちの仕事に以下のように置き換えることができます。

守：支援のもとに作業を遂行できる(半人前)。～ 自律的に作業を遂行できる(1人前)。

破：作業を分析し改善・改良できる(1.5人前)。

離：新たな知識(技術)を開発できる(創造者)。

同じような意味で用いられる言葉に表題の「不易流行」があります。この言葉はもともと江戸時代前期の俳諧師松尾芭蕉が見出した理念とされており、書物の「去来抄」には「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」と書かれており、意味としては「良い俳句を作りたいのであれば、まず普遍的な俳句の基礎をしっかりと学ぶこと。しかし時代の変化に沿った新しさも追い求めなければ、陳腐でつまらない句しか作れなくなる。」ということになります。不易流行の『不易』とは、時を越えた不変の真理をさし、『流行』とは時代や環境の変化によって革新されていく法則のことです。これらは一見矛盾しているように感じますが、根本において結びついているものであると言えます。

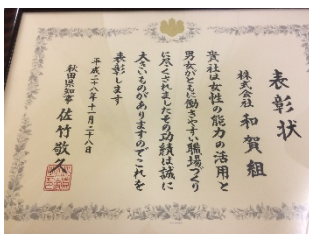
我々個人もそして企業も日々成長していかなばなりません。個々が「守・破・離」のレベル向上を意識すれば、企業は自ずと成長し業績は高まるものです。また社員が自発的に学びながら成長していく組織であれば、環境の変化に柔軟に対応しながら「不易流行」を実践できる企業へと成長できると言えます。平成28年も残すところ数日となりましたが、平成29年を迎えるにあたり、個々が新たな目標を持って仕事に取り組んで頂けますようご期待申し上げます。一年間ご苦労様でした、そして有難うございました。皆様よいお年をお迎えください。

## 秋田県女性活躍推進企業表彰



11月28日秋田ビューホテルにおいて、第1回秋田県女性の活躍推進企業表彰式が開催され、当社を

含む5社が受章し堀井副知事から表彰状とトロフィーを贈られました。



## 森林組合で安全講和



12月12日雄勝広域森林組合「第19回安全衛生大会」において、「我が社の安全への取り組み」と題してお話をさせて頂く機会を得ました。建設業同様林業に於いても事故が多発しており、異業種の取り組みを参考にしたいとの事でした。主にリスクアセスメントとPDCAの重要性と自社の取り組みを紹介いたしました。

## 湯沢雄勝みらいデザインU17



12月17日上記イベントに参加しました。これは雄勝地域振興局が主催したもので、本格的に進路を検討する以前の、17歳以下の高校生を対象に地域にある事業所が展示説明するイベントで、当社にも多くの高校生が興味を持っていただきました。是非当社を目指す若者に期待したいものです。

